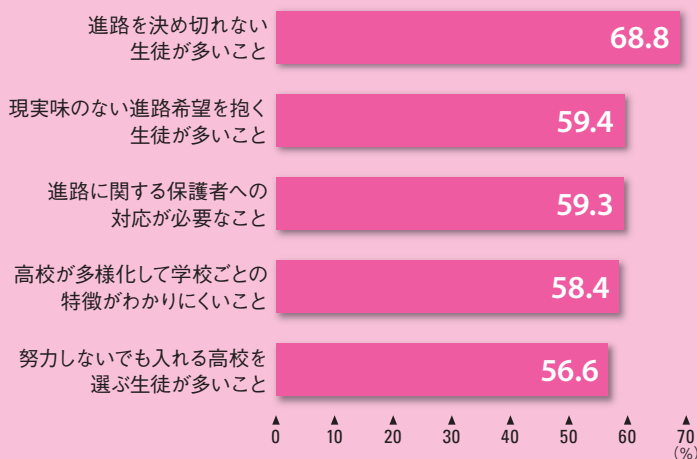


主体的な進路選択

—— 自らの意思と責任で決める力を育てる

中学校では、社会における自己の役割や将来の生き方について、生徒自らが主体的に選択・決定していく力の育成が求められている。しかし、実際は「誰かが選択してくれる」のを待つ受け身な生徒が多いことに課題を感じている教師も多い。今号ではインタビューと学校の事例を参考に生徒の主体的な進路選択の力を育む指導について考える。

進路指導を行う上で、次のようなことに対してどれくらい困難を感じますか



注1) 「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%
 注2) 全8項目のうち回答率の高かった上位5項目を掲載
 注3) サンプル数は中学校教員2,827人
 出典/Benesse 教育研究開発センター「学習指導基本調査報告書 小学校・中学校版」(2011)

進路選択に関する課題整理と解決の方向性

2012年度から全面实施となった新課程では、生徒自らに将来の生き方について考えさせると共に、体験などを通して働くことに対する理解を深め、その先の適切な進路選択・決定へと導いていく指導が求められている。ここでは、進路選択に関する生徒の現状や指導の課題を、データと『VIEW21』中学版モニターの先生方の声から整理し、課題解決の方向性を考える。

新課程におけるキャリア教育観

新学習指導要領に見られるキャリア教育推進の視点

第1章 総則

第1 教育課程編成の一般方針

- 2 職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道德性の育成が図られるよう配慮しなければならない。その際、特に生徒が自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮しなければならない。

第4章 総合的な学習の時間

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 2-(7) 職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

出典／文部科学省「中学校学習指導要領」より抜粋

中央教育審議会が提唱した中学校でのキャリア教育の役割

◎2009年7月審議経過報告

(学校教育の)各段階の中でも、中学校段階が極めて重要であると指摘したい。すなわち、中学校段階では心身の発達上の変化が著しく…(中略)…このような発達段階を踏まえれば、中学生に対しては、自らの将来の生き方・働き方等についてしっかりと考えさせるとともに、働くことの意味等について体験を通じて理解を深めさせ、普通教育・職業教育の適切な選択・決定等へと導くことが重要である。

◎2011年1月答申

発達の段階に応じた体系的なキャリア教育

【各学校段階の推進の主なポイント】

中学校「社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く」

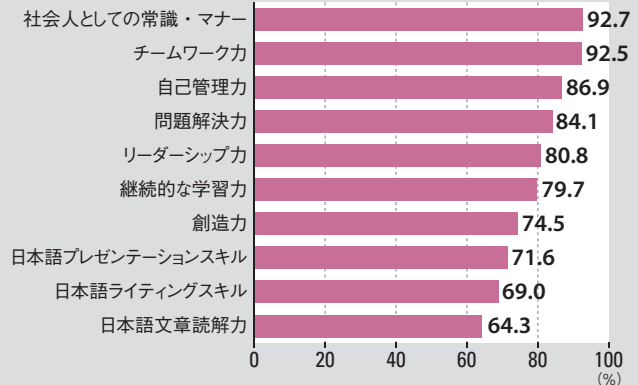
出典／中央教育審議会 キャリア教育・職業教育特別部会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(審議経過報告)(答申)より抜粋

主体的な進路選択——自らの意思と責任で決める力を育てる

社会が求める力と不足している力

企業が採用で重視するのは 「社会人としての常識・マナー」 「チームワーク力」「自己管理能力」

企業の採用責任者に「採用時に重視する能力やスキル」を尋ねたところ、「社会人としての常識・マナー」、「チームワーク力」が9割を超え、続いて「自己管理能力」「問題解決力」が挙げられた。選択肢にはICTや英語に関する項目も含まれていたが、比率は相対的に低く、態度や志向性に関するものが上位にきている。また、基本的な読み書きを示す、「日本語ライティングスキル」「日本語文章読解力」が6～7割と上位に挙げられている。

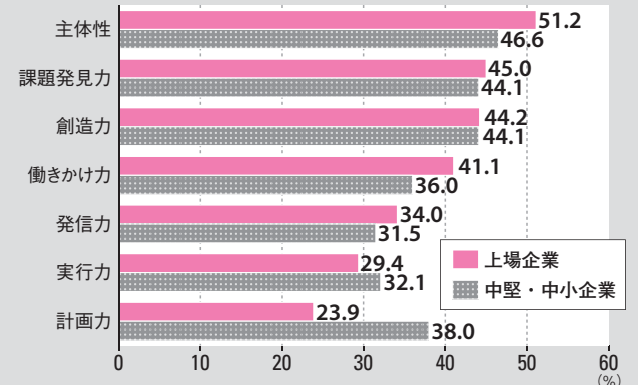


注1) 数値は「とても重要」+「まあ重要」の%
 注2) 全22項目のうち回答率の高かった上位10項目を掲載
 注3) 対象は企業の採用責任者577人
 出典／ Benesse教育研究開発センター「社員採用時の学力評価に関する調査」
 文部科学省委託研究 (2008)

企業が若手社員に不足を感じるのは 「主体性」「課題発見力」「創造力」

企業が若手社員に求めているにもかかわらず、不足していると感じている力を見ると、企業規模によらず不足感が高いのは、「主体性」「課題発見力」「創造力」「働きかけ力」「発信力」「実行力」であった。

一方、企業規模による差が大きかったのは「計画力」で、特に中小規模の企業において比率が高くなっている。



注1) 全12項目のうち回答率の高かった上位7項目を掲載
 出典／ 経済産業省「企業の求める『人材像』調査」(2007年)

現在の中学生の課題

『VIEW21』中学版読者モニターアンケートから

- 自分の進路や生き方について関心が低く、「誰かが決めてくれる」のを待つ生徒が目立つ

- 進路や職業に対するイメージが偏りがちである

- 3年生で現実的な進路選択を迫られると、「入りたい高校」から「入れる高校」に安易に変更する姿が見られる

- 進路希望はあるが、その目標と自分の置かれている位置との距離を正しく捉えていない生徒がいる

進路指導での課題

大都市圏では高校入試の選択肢が多様化

進路指導の課題を地域別に見たところ、「進路を決め切れない生徒が多いこと」や「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」「学校内に進路指導のノウハウが不足していること」については地域差が小さく、全国的な課題として捉えることが出来る。

一方、「高校の入試制度が複雑なこと」「高校が多様化して学校ごとの特徴がわかりにくいこと」については地

域差が大きく、南関東や近畿といった大都市圏を含む地域において比率が高くなっている。

近年、高校では、生徒の多様な興味・関心や進路に応じることが出来るよう多彩な学科が設けられると共に、入試機会も複数回にするところが増えた。このような変化が、進路指導の難しさにつながっていることが推測される。

■ 地域による差が小さい進路指導の課題

(%)

	北海道	東北	北関東	南関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
進路を決め切れない生徒が多いこと	67.1	72.6	60.8	70.2	71.4	65.6	68.9	69.2	67.9
現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと	54.0	58.8	58.1	63.8	59.8	53.6	62.2	63.6	58.2
学校内に進路指導のノウハウが不足していること	26.3	34.3	27.5	34.2	24.6	24.8	27.2	32.7	34.4

■ 地域による差が大きい進路指導の課題

(%)

	北海道	東北	北関東	南関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
高校の入試制度が複雑なこと	35.8	48.2	53.1	67.5	40.7	61.9	51.1	47.6	44.4
高校が多様化して学校ごとの特徴がわかりにくいこと	43.8	55.1	57.2	70.0	51.7	67.7	56.1	49.5	52.4

注1) 「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%

注2) 地方の区分は、「北関東」は茨城県・栃木県・群馬県。「南関東」は埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県。「中部」は新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県。「近畿」は三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県

注3) 対象教員は北海道137人、東北303人、北関東222人、南関東594人、中部569人、近畿375人、中国180人、四国107人、九州・沖縄340人
出典/ Benesse教育研究開発センター「学習指導基本調査報告書 小学校・中学校版」(2011)

教師が感じる進路指導の課題

『VIEW21』 中学版読者モニターアンケートから

● 1年生から、段階に応じたキャリア教育と進路指導を行うべきだが、具体的な手立が分からない

● 職場体験をしても表面的な感想にとどまり、生徒の勤労観をいまひとつ育てていない

● 指導する教師側もどうしても学力に目が行きがちで、キャリア教育の大きな流れの中で進路指導をする意識に欠けている面がある

● 生徒が納得のいく選択や決定を行う上で必要な、客観的なデータが不足している

主体的な進路選択——自らの意思と責任で決める力を育てる

課題解決に向けた方向性

◎社会の変化を見据え、今、生徒に必要な進路指導とは？

- 複数の選択肢の中から自分で適切なものを選ぶ訓練を、教科指導や進路指導に意図的に組み込む
- どのような選択にも不安はつきものであり、モヤモヤを抱えながらも前に進んでいける力を鍛える

インタビュー

京大総合博物館准教授
塩瀬隆之

▶ P.8

◎自ら進路を選択し、決める力を育むための指導の工夫とは？

- ポスターセッションを通じた探究活動で、自分の頭で物事を考え、将来や夢への道筋を描く力を育てる
- 3年間の「総合的な学習の時間」で積み上げてきた生徒の夢や志の実績を、志望校選択の指導に生かす

学校事例1

京都市立
大宅中学校

▶ P.12

- 客観的なデータを共有し、生徒が自ら取り組みを見直し、改善する力を育てる
- 自分の目標を達成するために「がまんすること」を決めさせ、自己統制力や計画遂行力を育む

学校事例2

鳥栖市立
田代中学校

▶ P.17

- 保育園や福祉施設に限定した職場体験を通して、生徒の自尊感情や自己肯定感を高める
- 中学校としての「型」を教え込み、班活動を通して生徒自治をさせ、責任感や自主性を芽生えさせる

学校事例3

福生市立
福生第一中学校

▶ P.22

◎インタビュー・学校事例に見る自校化のポイントは？

- 主体的な進路選択の力を育てるためには、進路やキャリアを考える必要感を高める働きかけと、生徒自身に物事を選択・決定させる機会を意図的に仕組むことが必要

まとめ

「主体的な進路選択」を育む指導に向けて

▶ P.26